

役に自分の思いを重ねて

高橋夏海さん(上飯樋)
& 飯館校演劇部の皆さん



相馬農業高校飯館校の3年生。1年生から演劇部に所属。2年連続の東北大会出場を経て、この夏、初の全国大会へ。部内で唯一村の出身。

HOPES
ホープス セカンド
2nd

高橋さんが所属する相馬農業高校飯館校の演劇部は、8月2日、全国コンクールに出場しました。上演したのは、「サテライト仮想劇―いつか、その日に、」。満席となった1400席から、惜しめない賞賛の拍手が贈られました。高橋さんは、村出身の先生役。「共感する部分があります。感情をこめました」。幕が降りた時には、「自分なりによくやった」と思えたそう。「それ



左は、宮城県仙台市のイズミティ21で開かれた全国コンクールの舞台。優良賞と舞台美術賞を受賞しました。右は、部の仲間たちと。



でも時間が経つと、もつとできなかもと思ってしまう」。

胸に迫る素晴らしい演技を見せる部員たちですが、脚本を手掛ける顧問の西田直人先生によると、「決して器用ではない」そうです。「けれど逃げないでコツコツと取り組んできた。その結果なのだと思えます」。今大会は、皆が自身の成長を感じた舞台でもありました。「他の誰にもできない5人の劇だった」「大会が大きくなる度、学校、地域、県、被災地：と背負う感じがあつて、伝えなくてはという使命感があつた」「緊張と向き合つた。周囲の人への感謝が、悔いの残らない演技につながつた。折れそうになつても踏ん張れるのは支えへの感謝があるから」。

高橋さんを含め5人の部員は全員が3年生。進学や就職の試験準備に忙しい毎日です。部活動で培った力を生かして目標を達成し、卒業公演でもう一度、5人だからできる演劇を見せてほしいものです。

〈編集後記〉

●「素敵だね」「がんばってね」「また来るよ」「久しぶりだね」。いいたて村の道の駅までい館がついにオープン！お盆期間中は特に、連日多くの方が足を運んでくださいました。全村避難に遭つた村にたくさんの方が集まっている事、目の前の光景に嬉しさから涙ぐんでしまいました。道の駅はまだまだこれから。みんな「までい」に育てていきましょう！（木幡）

●お笑い芸人の間寛平さんが被災地を走り元気を届ける「みちのくマラソン」。6年目の今年、5日目のゴールに、村の道の駅を選んでくれました。阪神淡路大震災で被災している寛平さん。「分かるんや。自分の家に帰れないつらさが。ここで皆の明るい笑顔に会えてありがたい。また来て復興する様子を見ていきたい。広報は明るい話題でいっぱいにしてな！」。温かなエール、大事にします。（倉屋）



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。